

NEWS LETTER



京都教育大学
附属教育実践センター機構
教育支援センター

Kyoto University of Education
Organization of Educational Research and Practice Centers
Educational Support Center

第25号(2015.7.2)

<http://cert.kyokyo-u.ac.jp/>

教採の取り組みについて

(岡田敏之)

教員採用試験を目前に控え、4年生や大学院生たちはひたむきに頑張っています。6/17,6/24,7/1には「直前セミナー」が大学教員や外部講師の方々の協力のもと行われ、学生たちは緊張しながらも熱心に面接指導を受けました。「緊張して頭が真っ白!」、「何を言っているのかわからなくて…」、「予想外の質問への対処が…」、「明らかに準備不足」など、それぞれ学生たちは反省していました。面接官からも様々なアドバイスいただきましたので、一部ですが紹介いたします。

- 自己アピールを1分で行うことが難しい学生が多いと感じられました。「1分」の感覚を身につける練習が必要と思います。
- 一般的な(時事問題など)の質問に対して苦手、あるいは想定していない学生が見られます。「地域のニュース」「子どもの中で流行っていること」「最近読んだ本」等、想定外の質問に対する応答力、またそれを教育に結びつける力が必要と思いました。
- 準備不足は、単に知識がないというだけでなく、準備をすればできることをしないということで、熱意がないとか努力が足りないという教員としての基本的な資質の欠如に見られてしまいます。せつかくの4年間の学びをしっかりとアピールできるように頑張ってください。
- 教採の勉強で大変だと思いますが、教員は子どもにとって社会への窓を開く大切なキーパーソンです。日頃から(ネットニュースでも構わないので)見聞を広めておきましょう。
- 教師としての信念(どのような若者を育てたいのか)、教師として覚悟、熱き思いがなければ、面接官の心に響く応答はなかなかできない。若さは魅力である。謙虚さを忘れず、おおいに熱き思いを語ってほしい。
- 表情、口調、間合い、声の強弱によって、同じ内容であっても受ける印象は大きく異なる。本当に相手に伝えたい内容であれば、すべてを駆使すべきである。単調な受け答えに終始してしまえば、内容が良くても説得力(インパクト)に欠けてしまう。

学生たちは、それぞれの面接官からいただいたアドバイスをもとに、教採セミナーや自主ゼミ等でも合格を目指して一心に頑張っています。指導いただいた先生方、ご多忙にもかかわらず本当にありがとうございました。

教育支援センター研究者申請プロジェクトの報告

(樋口とみ子)

教育支援センターでは、大学教員及び附属学校園教員が代表となって行う研究プロジェクトを「研究者申請プロジェクト」として受け付け、支援を行っています。平成26年度は、附属学校園教員と大学教員の共同によるプロジェクトとして下記の5つを実施しました。

- ・中学校技術科におけるものづくり学習後の学習意欲と工具使用の自己スキル意識に関する調査
- ・子どもの学習プロセスを見取る(2)
- ・大学及び附属学校園連携によるICT活用による授業開発
- ・中・高家庭科教員に求められる生徒理解と教科のとらえ方に関する研究
- ・「エネルギー活用作品」コンテストを通じて行う環境教育の実践

今年度も、研究者申請プロジェクトの募集を行っています。とくに、本センターで進めている教育研究改革・改善プロジェクト経費にもとづく取組『学び続ける教員』を養成するシステムのデザインに向けて」に関連する内容のプロジェクトに優先的に補助金(総額10万円)を配分する予定です。ご応募をお待ちしております(締切:7月10日)。

なお、昨年度、本センターで進めたプロジェクト「教員として求められる資質についての研究」の報告書を作成しました。2014年12月に実施したシンポジウム「これからの教師に求められるもの」の内容などを掲載しております。ご入用の場合はセンターまでお知らせ下さい。

“性と生”について学ぶ「人権に基づく性教育」シリーズの報告

(関口久志)

① 2015年5月16日(土)10:00~12:30 キャンパスプラザ京都6F(京都教育大学サテライト教室)

参加者20名(一般16名、本学院生2名、学生1名 教職員1名)

テーマ「母と子がいきいきと生活できる明日をめざして ぴーらぶ京都の活動紹介」

暴力のある家庭で育った子どもたちは深く傷つき、暴力の影響が心配されます。また暴力被害を受けた女性たちは、自身自身の心理的回復もさることながら母親として子どもとの関係についてどうしたらいいかと悩むことも多いものです。そのため、DVを受けた後の母と子両方の心理的回復のサポートがとても重要です。

この日は、その支援をする「びーらぶ京都」を招いて、そのプログラムを学習しました。母と子がそれぞれ別の部屋で同時に同テーマのプログラムに参加します。母親と子どもが同時に学ぶことの効果は大きく、また、安全で安心な場の体験や、グループでの話し合いやワークの体験が自己肯定感を高めていくそうです。

参加者からは「ほめることもプレッシャーになる」ということは新鮮だった。

「安心の居場所が大事とわかった」と感想がありました。

② 2015年6月20日(土) 14:00~16:30 キャンパスプラザ京都6F (京都教育大学サテライト教室)

参加者6名 (一般4名、本学院生1名、教職員1名 内容検討会のため少数)

テーマ「恋愛とおつきあい」を学ぼう ～指導者へのアンケート調査結果報告と特別支援学校高等部の実践～

知的障害児への「恋愛とおつきあい」についての学習は発達上の重要なテーマであり、性教育の大切な課題のひとつと認識されています。しかし、その実施率は高くはありません。このセミナーでは指導者へのアンケート結果からみえてきた「必要と思っているが実践できない」課題を整理して報告してもらい、その克服のために実際に性教育実践を行い理解を深めました。



平成27年度 教育支援センター主催 教育について考える催しについて

	形式	標 題	開催日
1	セミナー	人権に基づく性教育シリーズ	年間数回開催
2	ワークショップ	ヒマラヤの旋律に親しもうーネパールの弦楽器サーランギーの響きを通じてー	5/18 開催済
3	公開授業	国語科における法教育	年間数回開催
4	公開授業	臨床こくご学の実践	年間数回開催
5	公開講演	特別支援教育を考えるー生きる力の育成と知的障害教育の今日的課題ー	6/27 開催済
6	シンポジウム	ICTにより教育は本当に変わるのか	7/7 開催
7	ワークショップ	日本の文化を世界に伝えよう	年間3回開催
8	公開講演	教育臨床実践を知る	7/31,2月開催
9	セミナー	第7回美術科工芸特別セミナー 産業・工芸デザインの実践と現状及び創造デザイン演習	未定
10	セミナー	国際教育セミナー タイの学校における教員研修ー現場研修、管理職研修、教員交流ー	未定
11	セミナー	フェアプレイを問い直すーなぜ問い直す必要があるのかを考えるー	未定
12	ワークショップ	これは使える！教材づくり	未定

幼児教育専攻学生による board deco

6月は雨降りを楽しんでいる動物たち、鬱陶しい梅雨が楽しくなります。7月は海水浴を満喫している動物たち。夏休みが待ち遠しいですね。機構棟でご覧下さい。



教育支援センター

センター長/モラル・人権意識向上教育部門
教育実践連携部門
実地教育部門/就職・キャリア支援部門
実地教育部門/就職・キャリア支援部門
実地教育部門/就職・キャリア支援部門
実地教育部門 (兼任)

関口 久志 075-644-8326 sekihisa@
樋口とみ子 075-644-8337 tomiko@
西井 薫 075-644-8806 kaoru@
岡田 敏之 075-644-8214 okada@
今野 勝明 075-644-8216 konno@
小山 宏之 075-644-8281 koyama@

ボランティアオフィス 075-644-8336 (月 11時~14時、水 10時~13時、金 11時~15時) sien@

運動部活動指導者育成室 075-644-8143 (月・水・木 10時~15時15分) bukату@

事務担当: 研究協力・附属学校支援課 研究協力・センター機構支援グループ kenshien@

TEL 075-644-8335、8118 (内線ののみ) FAX 075-644-8339 E-mail cert@kyokyo-u.ac.jp

